

先の戦争と世代ギャップ

研究主幹 牧田徹雄



3割をわった戦中・戦前世代

「先の戦争＝満州事変以降の対中国戦争と太平洋戦争（1931～1945年）」の敗戦から55年の歳月が流れた。

戦後の新しい教育制度のもとに初めて小学校に入学した人々は1939年に生まれている。したがって、1938年以前に生まれた人々が戦中・戦前世代となる。

戦後30年目に青春期（16歳）に到達した人々が生まれたのが1959年である。そこで、1939年から1958年までに生まれた人々を戦後世代、1959年以後に生まれた人々を戦無世代と設定することが可能であろう。

今年の5月、全国16歳以上の男女2,000人あまりを調査相手として、戦争観を尋ねた世論調査（個人面接法）の結果では、現在、戦無世代が34%、戦後世代が37%を占め、先の戦争の当事者である戦中・戦前世代は29%と3割を下回っている。



戦無世代の78%が真珠湾攻撃の日を知らない

人々は、先の戦争について、どのくらいの知識を持っているのであらうか。この調査では、「最も長く戦った相手国」「同盟関係にあった国」「真珠湾攻撃を行った日」「終戦を迎えた日」の4つについて答えてもらったが、それぞれの正解率を世代別に示すと次のようになる。

表1 各問ごとの正解率				
	全体	戦無	戦後	戦中・戦前
中国	37%	31	36	43
ドイツ	55	47	57	61
12月8日	36	22	35	54
8月15日	91	84	94	94

この表をみると、ほほどの事項でも、戦無世代<戦後世代<戦中・戦前世代の順で正解率が高くなっていることが分かる。すなわち、戦無世代で先の戦争に関する知識は最も低い。特に、太平洋戦争開戦の日（＝真珠湾攻撃を行った日）が12月8日であると正しく答えた人がこの世代では22%であり、不正解の人が78%もいるということになる。

ちなみに、4項目とも全部正解だった人は、戦中・戦前世代27%、戦後世代17%、戦無世代10%という数字になっている。



戦中・戦前世代のみ肯定的

先の戦争についての認識を、「アジア近隣諸国に対する日本の侵略戦争だったか否か」、そして、「資源が少ない日本が生きるためにやむをえないものだったか

否か」の2点から尋ねてみた。

現在、先の戦争について、「アジア諸国に対する侵略戦争だった」と認識している人は51%で、「そうではない」とする人の15%を大きく上回っている。また、「昔のことだから、自分には関係ない」と答えた人が7%、「わからない、無回答」が28%であった。

表2 侵略戦争か否か				
	全体	戦無	戦後	戦中・戦前
侵略戦争	51%	48	54	50
違う	15	16	13	15
関係ない	7	7	8	5
わからない	28	30	25	30

この結果を世代別にみたのが上の表であるが、戦後世代で、「わからない」という人が相対的に少なく、「侵略戦争だ」と明確に答えている人が多いのが特徴となっている。

次に、先の戦争が「資源の少ない日本が生きるためにやむをえないものだった」と認識する人は30%で、「そうではない」とする人の35%よりも少ない。さらに、「昔のことだから、自分には関係ない」と答えた人が4%、「わからない、無回答」が31%であった。

表3 やむをえなかったか否か				
	全体	戦無	戦後	戦中・戦前
やむをえない	30%	20	30	41
違う	35	45	36	23
関係ない	4	5	4	2
わからない	31	30	30	33

そして、この項目に関しては、さきほどの結果より、世代別の傾向が際立っている。

すなわち、戦無世代が「やむをえないものではなかった」という先の戦争に対する批判的な意見に大きく傾いているのに対し、戦中・戦前世代では、「やむをえなかった」とする肯定的意見が多数派を占めている。

戦後世代でも批判的意見が強く、戦中・戦前世代が、この「やむをえなかったかどうか」では孤立している観がある。

以上をまとめると、先の戦争を侵略戦争であるとする意見はどの世代でも多数派であるが、中でも戦後世代でその傾向が顕著である。また、先の戦争を「やむをえなかった」と肯定的にとらえる人々は、戦無・戦後世代では少数派、戦中・戦前世代では多数派という構図になっているのである。

戦無世代に責任を引きつぐ覚悟あり

戦争責任に世代をからめて「戦後に生まれた世代は、先の戦争で日本が行った行為の結果について責任を引きつぐべき

かどうか」を質問した。

全体の結果をみると、「世代が違っても未解決の問題があるなら、引きついで解決すべきだ」が50%であり、「世代が違うのだから、引きつぐ必要はない」の27%を上回った。そして、「もともと日本に責任はなく、引きつぐべきかどうかという問題ではない」が5%、「わからない、無回答」が17%であった。

表4 戦争世代は責任を引きつぐべきか否か				
	全体	戦無	戦後	戦中・戦前
必要なし	27%	23	27	31
引きつぐべき	50	60	52	37
責任なし	5	4	6	5
その他	18	13	14	27
わからない				

これを世代別にみたのが上の表であり、「引きつぐ必要はない」という意見は、戦中・戦前世代で多く、戦無世代で少ない。また、「引きつぐべき」は戦無世代で多く、戦中・戦前世代で少ない。そして、戦後世代もその傾向は戦無世代に似ており、それぞれ、責任引きつぎ世代としての自覚をかなり持っているといえよう。



世代で違う影響メディア

「先の戦争に対する自分の考え方方に影響のあったメディア」をいくつでも答えてもらったのが下表である。

表5 先の戦争についての考え方方に影響のあったもの				
	全体	戦無	戦後	戦中・戦前
身近な人	36%	30	44	32
学校の教科書	21	33	20	9
学校の授業	22	35	18	12
テレビ	32	35	40	17
新聞	20	13	26	18
本	10	9	13	6
漫画	3	6	2	0
雑誌	3	3	4	2
アニメ・映画	9	18	8	1
インターネット	0	0	0	0
テレビゲーム	0	0	0	0
その他	5	1	2	14
特にない	25	21	22	35
わからない				

この結果も世代によって特徴があり、戦無世代では、教科書、授業、テレビ、漫画、アニメ・映画、戦後世代では、身近な人、テレビ、新聞、本、雑誌、そして、戦中・戦後世代では、その他（＝実体験）がそれぞれ相対的に多いという傾向があり、これらの違いが先の戦争に対する世代ギャップに反映していると考えられるのである。

この調査結果は、8月15日のNHKスペシャル『2000年 あなたにとって戦争とは』の中で紹介された。